

たくさんの人を笑顔に、元気に、ハッピーに
そのために輝き続けたい



みやの はら あきこ
宮之原 明子さん

略 歴

昭和49年鹿児島市生まれ。短大卒業後、20歳で㈱清友の専務取締役役に就く。また美人時計鹿児島版の運営会社として平成22年10月に設立した㈱ミエルカの、代表取締役社長も務める一児の母。講演会講師や司会業などでも幅広く活躍中。

平成22年11月に美人時計鹿児島版、翌年7月には美男時計鹿児島版をスタートさせ、鹿児島から笑顔と元気を発信中。

昨年は美人ビアガーデンを企画し、大反響。今後のさらなる活躍が期待される。

CloseUp
クローズアップ

20歳で抱いたセルフイメー ジをすべて現実のものに

父親が納豆を手掛ける(株)しか屋、母親がパーティーコンパニオンの派遣業を行う(株)清友の経営者という環境で育つたため、中学生の頃から将来の夢は「社長」だった。家の決まり事で13歳になった頃からスーパーで納豆を売り、短大生になってからは母親の会社も手伝っていた。

ゆくゆくは母親の会社を継ぐつもりだったが、その前にたくさんを経験を積もうと、アナウンサーを目指し、上京することをひそかに計画していた。いよいよ、上京することを母親に告白すると、この会社は閉めると言われ、泣く泣く上京を断念。短大卒業と同時に専務取締役として母親の会社を任されることになった。

まず最初に行ったのが自分の35歳までのセルフイメーヂを手帳に書き留めること。1年ごとの会社の年商、自分の年収、年齢ごとのライフスタイルや会社の雰囲気など…。イメーヂの根本は、単純にテレビドラマに出てくるかっこいい女性たちだった。しゃれたオフィスでパンツスーツに身を包み、バリバリ働く。27歳でデザイナー、30歳で子どもを産み、さらに自社ビルを購入、社内に託児所を設置するこ

とまで書き留めた。「何をするにもまずイメーヂすることからスタートします。今までそのとおりのことしかやってきていないんです」とイメーヂしたこと全てを實現してきた自身を振り返る。

「美人」というキーワードは まちを元気にする起爆剤

これまで人材総合プロデュースとして9つもの事業を展開。さらに新しいことを始めたいと考えていたとき、東京の知人を介して出会ったのが「美人時計」を運営する田中慎也社長だった。

「美人時計」とは素人モデルによる時計サイトで、1分ごとに自動で写真が切り替わり、手書きボードを持った「美人」がユーザーに時刻を知らせるもの。当時はまだ立ち上げたばかりだったが、常にたくさんの人が関わり、「美人」というキーワードが、今までやってきた「輝く女性を発掘し、育てていく」というコンセプトにぴったりと一致したため、やってみようという決断。その鹿児島版の運営会社と



“bijin-tokeiであなたは1分間の恋をする”がキャッチコピーの美人時計

して平成22年10月に(株)ミエルカを設立。美人時計鹿児島版は同年11月11日11時11分に、また翌年7月7日には東京、京都に続き3番目に美男時計鹿児島版をスタートさせ、鹿児島から美人(よかおこじよ)と美男(よかにせ)の笑顔と元気を発信している。

さらに昨年6月に企画したのが期間限定の美人ビアガーデン。キャストを募集し、300人を超える応募の中から最終的に30人を選考し、スタート。県内外からたくさんの方が訪れ、鹿児島版のうちに元気と笑顔が集まった。



美人ビアガーデン

憧れの母のように キラキラ輝く女性でありたい

「美の秘訣として一番大切なのはポジティブな考え方を持つこと。そうすることでその人が放つ魅力のオーラは自然と出てくるもの。もちろん外見の美しさも大切で、美しく、かっこよくあることが周りの人たちを幸せにするとと思うので、普段から努力すべきだと思います」母親を見てきてそう思うと話す。「母は60歳を過ぎていますが、本当にきれいなんですよ。ポジ

ティブで、元気でとても魅力的」

女性は今まで「諦める人生」という考え方を持たれがちな^{あきら}だ。仕事、結婚、子育て、趣味、全てをこなすのは難しいと。「私の母は、子供を3人産み、会社を立ち上げ、それでも自分の好きなこともたくさんやってキラキラと輝いている。私もたくさんの女性が憧れるような存在でありたいし、女性だからこそ何でもできるんだというのを次の世代に伝えていきたい。だから日々の努力は怠りません」自身も一児の母親である宮之原さんの言葉は、頑張る女性の原動力だ。

鹿児島版の魅力を全国、世界に 広げていきたい

昨年12月には、鹿児島から人・まちを元気にするエンターテインメント居酒屋「ハッピーダイニング虹家^{にじや}」を天文館にオープン。「鹿児島のまちを元気にするには、人が元気でなければいけないと思っています。元気なまちに、元気な人が集まってくる。鹿児島が元気な人でいっぱいになるようなパワースポットをつくってきたい」

今後は全国に、さらには世界に飛び出し、鹿児島の魅力を伝えたいと考えている。「鹿児島に行ってみたいと思う人が増えるよう全力で頑張ります」と話す宮之原さんは、薩摩おこじよ憧れのキラキラ輝く女性である。